

V 結果と考察（第2部）

4 Study Homework（家庭学習力の重視・習慣化）

「確かな学力の向上に向けた取組みに資する調査」の結果、本市における課題は「家庭学習力」にあるという結論に至った。「家庭学習力」とは、学校以外の時間に自ら学習に向かう力のことを指している。「家庭学習力」が身に付けば、主体的に家庭学習に取り組むことができるとともに、学校での学習においても自信へとつながると考えられる。本市の学校の取組みと子どもたちの現状とを踏まえ、家庭学習の必要性和習慣化の重要性について以下のようにまとめた。

（1）「できている子ども」と「できないと思っている子ども」の違い

問 41【授業内容の理解度】と問 42【勉強ができる＝到達度】の二つの回答の選択肢番号（1～4）を足し合わせた数値（2～8）を小さい順に並べ、上から順にほぼ同じ割合（25%）になるように 4つのグループに分けた。以後、4つのグループについては、表2のように「仮想学力4群」と呼ぶことにする。

表2 仮想学力4群（理解度＋到達度の4分位による4群）

1群	[1番目のグループ＝上位1/4＝1群]は、学力が最も高いと推定できるグループ
2群	[2番目のグループ＝中上位1/4＝2群]は、学力が次に高い（ある程度分かるしできる）と推定できるグループ
3群	[3番目のグループ＝中下位1/4＝3群]は、学力が身に付いていないが、ある程度はできると推定できるグループ
4群	[4番目のグループ＝下位1/4＝4群]は、学力が身に付いていないと推定できるグループ

「仮想学力4群」による他の設問の分散分析を行った結果、表3のようになった。また、表3の見方については、以下を参照していただきたい。

表3の見方について

- ・ 1群～4群の4つの群の選択肢番号の平均値や分布に違いがあるかどうかを見た。結果、有意差がないのは70設問中3問のみであった。
- ・ 選択肢番号の平均値の欄について
 - ①全体 回答者全員の選択肢番号の平均値（選択肢が2の場合は、選んだ%で表示）。
 - ②順位 大設問内の順位で、数値（選択肢番号の平均値）が小さい方（肯定的な回答をしている方）が1。
選択肢が2の場合は、選んだ%が多い方が1。
 - ③最小 1群から4群の平均値の値が最も小さい群の平均値。
 - ④最大 1群から4群の平均値の値が最も大きい群の平均値。
 - ⑤差 上記の最大と最小の差で、大きいほど4つの群の間の違いが大きい。
 - ⑥順位 1群から4群の4つの群の順位、小さい方が1位。
この欄が空欄としているのは、4つの群の順位と群の名称の1～4が昇順あるいは降順の1 2 3 4か4 3 2 1を意味する。
空欄としたのは、この昇順あるいは降順の場合が70設問中64問とほとんどのため見やすさに配慮した。
- ・ Gr数について
 - ①有意差がある場合のsubグループの数を表す。
 - ②有意差が無いと「学力別4群」に違いがないのでsubグループの数は1となる。
 - ③subグループの数が4の場合は、「学力別4群」のどの群の間にも違いがあることで学力の違いとの関連が大きい。
- ・ 大設問の標記順について
 - ①設問及び回答の仕方が違うものを最初に標記した。（選択肢数が2の「学習上の悩み」と「増やしたい時間」）
 - ②選択肢数が7の設問である家庭での時間の使い方をその次に示した。
 - ③選択肢の数が4の残りの6つの大設問については、大設問の中で平均値の差が最も多い設問の平均値を大設問の代表として、大設問間の代表の平均値の差の大きい順に標記した。

表3 仮想学力4群による他の設問の分散分析

設問 コード	設 問	有意 差	選択肢番号の平均値					順 位				Gr 数		
			全体	順位	最小	最大	差	1群	2群	3群	4群			
学習上の悩み (選択肢 2)			13設問											
DC4307	7.苦手教科等の克服	.000	48.3%	2	24.7%	78.8%	54.1%					4	順位の詳細 ○ ○ ○ 1<2,3<4 ○ ○ 1,2<3<4 1<2<[3],4 1,2<3<4 4,3<2<1 1<2,3<4 1<[2],3<4	
DC4304	4.学習方法が不明	.000	47.7%	4	25.6%	77.1%	51.4%					4		
DC4305	5.どうすべきか不明	.000	35.0%	7	16.4%	63.6%	47.2%					4		
DC4311	11.持続力の欠如	.000	47.3%	5	30.3%	70.6%	40.2%					3		
DC4302	2.眠気等の体調不良	.000	55.6%	1	41.4%	75.6%	34.2%					4		
DC4310	10.結果が出ない	.000	40.7%	6	26.6%	56.4%	29.8%					4		
DC4303	3.ノートの活用法の不明	.000	27.0%	9	16.2%	44.6%	28.4%					3		
DC4306	6.スタートが困難	.000	48.0%	3	37.7%	59.6%	21.9%					3		
DC4308	8.学習の意義が不明	.000	15.8%	11	8.3%	29.9%	21.6%					3		
DC4313	13.悩み等は無い	.000	8.7%	13	0.7%	19.3%	18.6%					3		
DC4309	9.教授者がいない	.000	11.9%	12	5.5%	22.7%	17.2%					3		
DC4301	1.学習環境の不備	.000	19.8%	10	14.9%	29.9%	15.0%					3		
DC4312	12.時間不足	.788	30.4%	8	28.9%	31.5%	2.6%	1	2	4	3	1※		
増やしたい時間 (選択肢 2)			5設問											
DC495	5.読書	.000	40.6%	2	31.2%	45.4%	14.3%					2	4<3,2,1 2,1,3<4 4<2,3,1	
DC491	1.携帯電話やスマートフォン	.000	15.1%	3	10.8%	24.4%	13.6%	2	1	3		2※		
DC494	4.勉強	.022	51.7%	1	44.9%	54.2%	9.4%	4	2	3		2※		
DC493	3.テレビゲーム	.204	12.5%	6	9.3%	13.6%	4.3%	2	4	1	3	1※		
DC492	2.テレビやビデオ,DVD	.408	13.0%	5	11.2%	14.2%	3.1%					1		
時間の使い方 (選択肢 7)			6設問 (選択肢7)											
C44	メール・ネット利用時間	.000	4.59	4	3.81	5.08	1.27					4	○ 1<2,3<4 1<2,3<4 4<3,1,2 4<[3],2,1	
C52	学校休業日の学習時間	.000	4.79	5	4.42	5.35	.93					3		
C47	学校外での学習時間	.000	4.36	2	4.03	4.86	.83					3		
C46	TVゲームの従事時間	.000	4.54	3	4.15	4.72	.57	3	4	2		2※		
C45	TV等の視聴時間	.002	3.89	1	3.64	4.05	.41					2		
C48	読書の時間	.000	5.47	6	5.26	5.65	.39					2	1<2,3,4	
家庭生活・家庭学習			6設問											
C54	授業の予習	.000	2.61	5	2.18	3.19	1.02					3	1<2,3<4 ○ 1<2,3<4 ○ 1<2,3<4	
C53	計画的な家庭学習	.000	2.43	3	2.04	2.99	.95					4		
C55	授業の復習	.000	2.37	2	2.00	2.95	.95					3		
C56	宿題	.000	1.57	1	1.29	2.09	.80					4		
C51	家庭生活の計画性	.000	2.69	6	2.40	3.11	.71					3		
C50	家庭生活のルールの有無	.000	2.55	4	2.32	2.79	.47					3	1<2<[3],4	
学習の自己評価			6設問											
C40	授業への集中度	.000	1.79	3	1.40	2.43	1.02					4	○ ○ ○ ○ ○ ○	
C38	自分の考えの文章化	.000	1.86	4	1.47	2.45	.98					4		
C39	話し合いでの思考の深化	.000	2.02	5	1.59	2.55	.96					4		
C35	意見発表の自己評価	.000	2.13	6	1.68	2.64	.96					4		
C37	教師の話等への傾聴	.000	1.49	1	1.27	1.86	.59					4		
C36	友達の話等への傾聴	.000	1.50	2	1.29	1.76	.47					4	1.29	
学習形態の好悪			7設問											
C11	自力思考学習	.000	2.09	6	1.72	2.63	.91					3	1<2,3<4 ○ ○ ○ 1,2<3<4	
C14	自己設定課題学習	.000	2.15	7	1.82	2.65	.83					4		
C13	教師設定課題学習	.000	1.96	2	1.67	2.43	.76					4		
C8	講義形式の学習	.000	2.08	4	1.88	2.46	.58					3		
C12	少人数学習等	.000	2.09	5	1.88	2.42	.54					3		
C10	ペア学習	.000	1.99	3	1.77	2.24	.46					4	○ 1<2,3<4	
C9	グループ学習	.000	1.71	1	1.52	1.95	.43					3		
効用度			10設問											
C28	発表の機会の確保	.000	1.65	8	1.33	2.12	.79					4	○ 1<2,3<4 1,2<3<4 ○ 1,2<3<4 ○ 1<[2],3<4 1<2,3<4 ○ 1<2<[3],4	
C29	思考時間の確保	.000	1.66	9	1.48	1.95	.47					3		
C33	外部人材の講話	.000	1.62	7	1.46	1.91	.45					3		
C25	目標の提示	.000	1.51	5	1.33	1.78	.45					4		
C27	目標や振り返りの転写	.000	1.51	6	1.35	1.80	.45					3		
C26	振り返り活動の実施	.000	1.50	4	1.32	1.77	.44					4		
C34	評価内容の事前説明	.000	1.74	10	1.61	1.94	.33					3		
C30	話し合い活動の実施	.000	1.44	2	1.29	1.61	.32					3		
C31	作業や体験の重視	.000	1.31	1	1.19	1.48	.29					4		
C32	ICT機器の活用	.000	1.47	3	1.36	1.59	.23					3		
学習状況			10設問											
C18	発表の機会の確保	.000	1.74	7	1.43	2.09	.65					3		1<2,3<4 ○ ○ 1<2,3<4 1,2<3,4 1<2,3<4 1<2<3,4 ○ 1<2<3,4 1,2<3,4
C16	振り返り活動の実施	.000	1.85	8	1.65	2.10	.45					4		
C15	目標の提示	.000	1.53	4	1.34	1.78	.44					4		
C19	思考時間の確保	.000	1.43	2	1.24	1.64	.40					3		
C23	外部人材の講話	.000	1.92	9	1.76	2.13	.38					2		
C17	目標や振り返りの転写	.000	1.61	6	1.45	1.82	.37					3		
C22	ICT機器の活用	.000	1.58	5	1.40	1.72	.32	1	2	4	3	※		
C21	作業や体験の重視	.000	1.41	1	1.26	1.55	.29					3		
C20	話し合い活動の実施	.000	1.46	3	1.31	1.60	.29					3		
C24	評価内容の事前説明	.000	1.95	10	1.85	2.10	.25					2		
学習形態			7設問											
C7	自己設定課題学習	.000	2.12	7	1.88	2.35	.47					3	1<2,3<4 1<2,3<4 1<2,3<4 1<2,3<4 ○ 1<2,3<4 1,2,3<4	
C4	自力思考学習	.000	1.53	3	1.35	1.80	.45					3		
C6	教師設定課題学習	.000	1.44	1	1.28	1.69	.41					3		
C2	グループ学習	.000	1.56	4	1.40	1.80	.40					3		
C3	ペア学習	.000	1.84	6	1.67	2.07	.40					4		
C1	講義形式の学習	.000	1.46	2	1.34	1.64	.30					3		
C5	少人数学習等	.010	1.75	5	1.69	1.90	.21					2		
無回答等を除く70設問中 64設問が4分位Gr順			設 問	順位の欄の色は 逆転項目 6設問			順位の欄1,4の色は独 立SUBグループ			順位の空白の欄は、 1234 または 4321			6 ←※の数 ＝昇順あるいは降順ではない設問=6設問	

順位の詳細

○
○
○
1<2,3<4
○
○
1,2<3<4
1<2<[3],4
1,2<3<4
4,3<2<1
1<2,3<4
1<[2],3<4

4<3,2,1
2,1,3<4
4<2,3,1
※

○
1<2,3<4
1<2,3<4
4<3,1,2
4<[3],2,1
1<2,3,4

1<2,3<4
○
1<2,3<4
○
1<2,3<4
1<2<[3],4

○
○
○
○
○
○

1<2,3<4
○
○
1,2<3<4
1<2,3<4
○
1<2,3<4

○
1<2,3<4
1,2<3<4
○
1,2<3<4
○
1<[2],3<4
1<2,3<4
○
1<2<[3],4

1<2,3<4
○
○
1<2,3<4
1,2<3,4
1<2,3<4
1<2,4,3
1<2<3,4
1<2<3,4
1,2<3,4

1<2,3<4
1<2,3<4
1<2,3<4
1<2,3<4
○
1<2,3<4
1,2,3<4

平均の詳細			
1群	2群	3群	4群
24.7%	45.1%	59.0%	78.8%
25.6%	44.8%	56.6%	77.1%
16.4%	30.0%	41.3%	63.6%
30.3%	46.3%	52.1%	70.6%
41.4%	53.7%	60.3%	75.6%
26.6%	38.8%	50.0%	56.4%
16.2%	20.7%	33.3%	44.6%
37.7%	47.9%	53.2%	59.6%
8.3%	11.8%	17.7%	29.9%
19.3%	5.8%	2.1%	0.7%
5.5%	10.1%	13.2%	22.7%
14.9%	16.4%	20.9%	29.9%
28.9%	30.5%	31.5%	31.4%
45.4%	43.8%	39.2%	31.2%
12.7%	10.8%	13.5%	24.4%
54.2%	52.9%	53.2%	44.9%
13.1%	13.6%	9.3%	13.5%
11.2%	13.6%	14.0%	14.2%
5.08	4.71	4.47	3.81
4.42	4.74	4.88	5.35
4.03	4.28	4.48	4.86
4.69	4.72	4.50	4.15
4.05	3.96	3.84	3.64
5.26	5.52	5.57	5.65
2.18	2.60	2.72	3.19
2.04	2.36	2.56	2.99
2.00	2.32	2.43	2.95
1.29	1.45	1.64	2.09
2.40	2.67	2.77	3.11
2.32	2.55	2.67	2.79
1.40	1.70	1.88	2.43
1.47	1.77	1.97	2.45
1.59	2.03	2.17	2.55
1.68	2.12	2.35	2.64
1.27	1.43	1.54	1.86
1.29	1.47	1.60	1.76
1.72	2.06	2.15	2.63
1.82	2.07	2.24	2.65
1.67	1.86	2.03	2.43
1.88	1.95	2.14	2.46
1.88	2.08	2.10	2.42
1.77	1.96	2.11	2.24
1.52	1.70	1.79	1.95
1.33	1.58	1.77	2.12
1.48	1.61	1.70	1.95
1.46	1.54	1.69	1.91
1.33	1.47	1.57	1.78
1.35	1.43	1.57	1.80
1.32	1.45	1.56	1.77
1.61	1.69	1.79	1.94
1.29	1.45	1.50	1.61
1.19	1.28	1.38	1.48
1.36	1.48	1.51	1.59
1.43	1.77	1.84	2.09
1.65	1.81	1.96	2.10
1.34	1.49	1.62	1.78
1.24	1.44	1.49	1.64
1.76	1.87	2.03	2.13
1.45	1.58	1.68	1.82
1.40	1.59	1.72	1.72
1.26	1.40	1.51	1.55
1.31	1.44	1.55	1.60
1.85	1.88	2.04	2.10
1.88	2.16	2.21	2.35
1.35	1.51	1.58	1.80
1.28	1.41	1.46	1.69
1.40	1.53	1.59	1.80
1.67	1.80	1.93	2.07
1.34	1.43	1.50	1.64
1.69	1.71	1.73	1.90

表3より、以下のことが読み取れる。

○「学習上の悩み」について

- ・「教授者がいない」等の外的な要因による悩みは、回答数も比較的少なく、「学力別4群間」の違いも比較的小さい。
- ・「4群」に特徴的なのは、「ノートの活用法の不明」「学習の意義が不明」である。個別の対応が効果的。
- ・「学力別4群」間で違いが大きいのは、学習方法全般と内的な要因なので、今まで以上に学習方法や生活全般の指導を丁寧に行い、子どもの自己肯定感の向上に努めることが必要。
- ・「時間不足」は要因が多様であり、「学力別4群」による違いは見られない。

○増やしたい時間について

- ・「テレビ」「テレビゲーム」の時間は、「学力別4群」間で違いはなく、日常生活になじんでいる様子が伺える。
- ・「勉強」「読書」「携帯電話やスマートフォン」では、「4群」だけが他の3つの群と違いがあり、勉強や読書よりも携帯電話やスマートフォンの時間が欲しいと思っている。

○時間の使い方について

- ・「4群」の子どもは、「読書」を除くと、他の3群と時間の使い方に違いがあり、「学校休業日の学習時間」「平日の学校外での学習時間」が少なく、「携帯電話等の利用時間」「TVゲームの従事時間」「TVの視聴時間」が長い。
- ・「1群」の子どもは、「2群」や「3群」と比べると、「TVゲームの従事時間」「TVの視聴時間」では違いがないが、「学校休業日の学習時間」「平日の学校外での学習時間」は長く、「携帯電話等の利用時間」は短い。
- ・「読書」は、「1群」の子どもだけが他の3群と比べて有意に時間が長い。

○家庭生活・家庭学習について

- ・特に「授業の予習」「計画的な家庭学習」「授業の復習」において、「1群」と「4群」との差が大きく、家庭での学習方法や学習計画の立て方など丁寧に指導することが必要。

○学習の自己評価について

- ・「自分の考えの文章化」「話し合いでの思考の深化」「意見発表の自己評価」において、「1群」と「4群」との差が大きく、これらの場面でより丁寧な指導が必要。また、「3群」や「4群」の子どもが授業場面で具体的な活動がわからず、「授業への集中度」にも影響がでていると推測できる。

○学習形態の好悪及び効用度について

- ・学習形態の好悪について、「自力思考学習」「自己設定課題学習」において、「1群」と「4群」との差が大きく、能動的な学習を行う際には丁寧に指導することが必要。
- ・効用度について、「ICT機器の活用」「作業や体験の重視」「話し合い活動の実施」において、「1群」と「4群」との間に有意な差あるものの、比較的差が少ない。これらの活動は、多くの子どもに有効な手段であると推測できる。

○学習状況及び学習形態について

- ・学習状況及び学習形態の認知については、多くの項目で「1群」から順に並んでおり、「1群」の子どもは今どんな活動をしているか認知しながら活動していると推測できる。「4群」の子どもはその反対のことが言える。

まず、仮想学力の信頼性について検討してみたい。仮想学力による 70 の設問の分散分析で、有意差がないのは 3 問だけである。しかも、有意差のある 67 問中 64 問が仮想学力 4 群の順序と同じ昇順または降順に並んでいる。つまり、仮想学力が高いほど、授業中に自分の意見をよく発表したり、集中度が高かったりするなど、授業に対するほとんどの質問に対して肯定的な回答をしている。さらに家庭生活でも、予習や宿題などによく取り組んでいて、学習や読書の時間が長く、メールやインターネットの利用時間が短いと回答している。また、学習形態でみると、仮想学力の高い子どもが、どの学習形態もよく行われていると回答している。これは、子ども自身がどのような授業が行われているか認知（メタ認知）しながら授業を受けていることを意味している。これらのことから、仮想学力は子どもの学力をかなりの的確に示していると言える。

仮想学力が学力を的確に反映していると仮定すると、各設問の平均値の差が大きいほど学力への影響力も大きいと推定できる。平均値の差に着目すると、学習形態や学習状況の違いよりも家庭生活・家庭学習の方が、差が大きいことが読み取れる。

つまり、子どもの学力差は、学習形態や学習状況よりも家庭での過ごし方が大きく影響していることが推定できる。

（２）綾瀬市小・中学校の授業改善に向けての取り組み

綾瀬市では、小・中学校ともに校内研究をはじめ、様々な形で授業改善が行われてきた。

表 4 は、平成 29 年度における綾瀬市立小・中学校の校内研究のテーマ一覧である。その結果、教員の授業スキルが向上するとともに、子どもたちに分かる授業が提供されていることが調査結果（**図 8**）より分かる。

表 4 綾瀬市小・中学校 校内研究一覧

学校名	教科等	テーマ等
綾瀬 小学校	算数科	学ぶ喜びを見いだす子 －主体的・対話的に学ぶことを通して、考える力・表現する力を育てる－
綾北 小学校	国語科	生き生きと学び合う子 －よく聞き、よく考え、伝え合う－
綾西 小学校		自分らしく豊かに学び合う子 －聞いて、考えて、つなげる授業づくりを通して－
早園小 学校		学ぶ力を育てる授業作りをめざして －「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざした授業改善－
綾南 小学校	国語科	全員が『わかる！できる！楽しい！』を実感できる授業をめざして －特別支援教育の視点を生かした授業づくり－
天台小 学校		学びを楽しむ子をめざして －児童が思いを伝え合い、学び合う授業を通して－
北の台 小学校		すすんで学び合う子の育成をめざして －『聴いて、考えて、伝え合う』力を－
落合 小学校	道徳科	「豊かな心でよりよく生きる子」をめざして －学び合いにより価値の再構築に迫る道徳の時間の工夫－
土棚 小学校		自ら学び、心豊かに生きる子 －共に学び、共に育つ学校づくり・授業づくり・学級づくり－
寺尾 小学校	外国語活動 算数科	『主体的に向かい合い、かかわり合い、学び合う子』 －わかる、楽しい授業を通して互いに認め合える力を育てる－

綾瀬 中学校		生徒が「いきいきと取り組む学習」を通して －自ら思考・判断・表現する授業づくり－
綾北 中学校		学習意欲を喚起する授業づくり －わかる 伝えたい もっと知りたい・やってみたい－
城山 中学校		主体的に学習に取り組む生徒の育成 －teaching（教師主導の授業）から learning（生徒が互いに学び合 う場）へ－
北の台 中学校		主体的・創造的に生きる生徒の育成 －思考力・判断力・表現力を高める授業づくり－
春日台 中学校		『思考力・判断力・表現力の育成』 －思考力・判断力・表現力の育成をするための指導と評価の工夫－

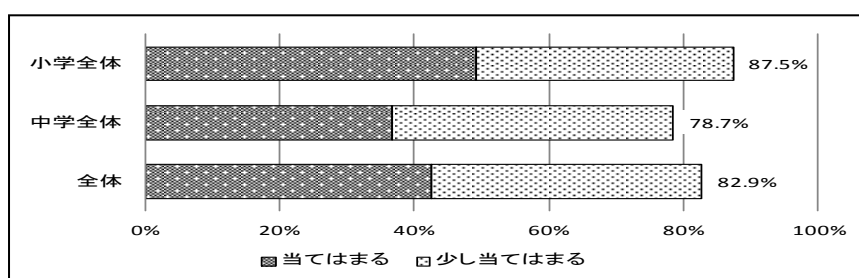


図8 問41「授業の内容は、理解できている」に対する児童・生徒の回答

しかし、授業内容が理解できたからと言って、勉強ができる（ここでは到達度と仮定する）と感じていないことが図9から分かる

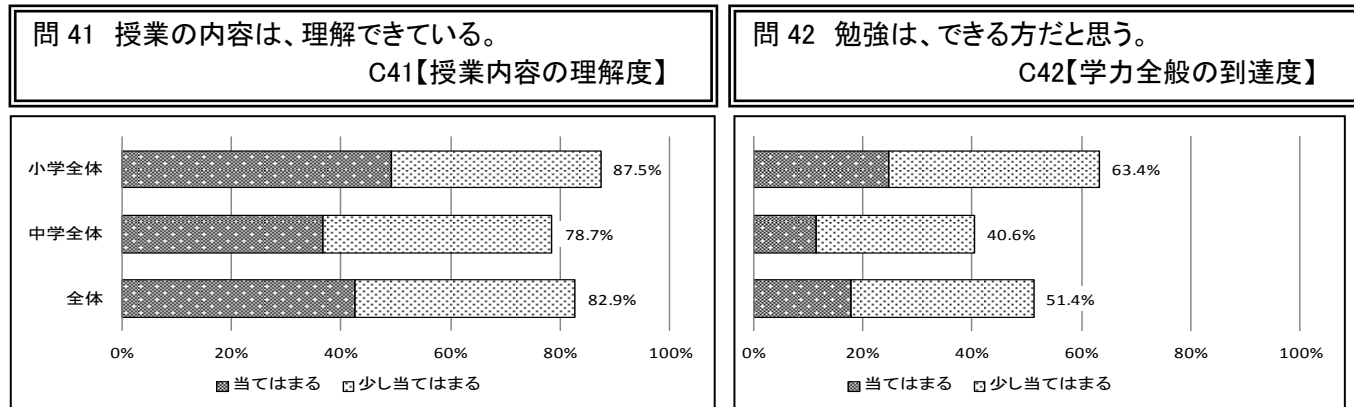


図9 問41と問42の児童・生徒の回答比較

どんな素晴らしい授業が行われ、子どもたちが授業内で理解したと感じても、子どもたちは完全に習得できた（学力の到達）とは感じていない。これは発達段階が上がるにつれ、客観的に自身を判断し、さらに下がる傾向にある。授業内で理解できたのになぜ習得できないのか。ここには、先述したとおり家庭学習の時間不足が考えられる。

（3）高い効果をあげている学校の特徴について（文部科学省委託研究より）

先行研究からも家庭学習の有用性について述べられている。図10の「平成25年度全国学力・学習状況調査（きめ細かい調査）の結果を活用した学力に影響を与える要因分析に関する調査研究」は、国立大学法人お茶の水女子大学の耳塚寛明教授のグループが文部科学省の委託を受け研究したものである。

これは、平成25年度全国学力・学習状況調査の追加調査として実施した「保護者に対す

る調査」の結果を活用し、家庭状況と学力の関係、不利な環境にも関わらず成果を上げている学校や児童・生徒の取組みを分析したものである。

不利な環境にも関わらず、統計的に予測される学力を上回る成果を上げている学校では、共通の特徴がいくつかある。

（表 5）

その一つが、家庭学習の指導の充実である。ここでは、「宿題＋自主学習、自分の関心に沿った学習と弱点を自分で発見し補充する学習」「小学校では特に丁寧な指導を行う」

「必ず教師が読み、手を入れ子どもに返す」などの家庭学習の指導の詳細についての特徴が示されている。

（4）読書について

前述の表 2 及び表 3 より、読書について「学力が最も高いと推測できるグループ」と「学力が身に付いていないと推測できるグループ」には、有意な差がある。

また、中央教育審議会答申（平成 28 年 12 月 21 日）では、「教科書の文章を読み解けていないとの調査結果もあるところであり、文章で表された情報を的確に理解し、自分の考えの形成に生かしていけるようにすることは喫緊の課題である。」「小学校低学年の学力差の大きな背景に語彙の量と質の違いがある。」などの指摘がされているところである。「文章を能動的に読む力」や「語彙を量と質の両面から充実させること」については、読書量に関係するところでもあると考える。

さらには、アメリカのステイブン・クラッシュェンの研究によると、読解力や文章力、語彙、文法などといった言語能力を高めるには、子どもが学校の内外で自分の好きな本を自発的に読む「自由読書」を行うことが効果的だという。「自由読書」の効果は、例えば、語彙の読み取りが速くなることに現れる。これは、語彙を教師に教え込まれるという受け身の姿勢ではなく、自発的に読むという姿勢にその要因があると言える。年間 100 万語の英語を読む子どもならば、繰り返し出てくる語などについてはそのうち文脈などから意味をつかんで習得することができるので、結果として、年間で約 1,000 語の語彙を習得することになると

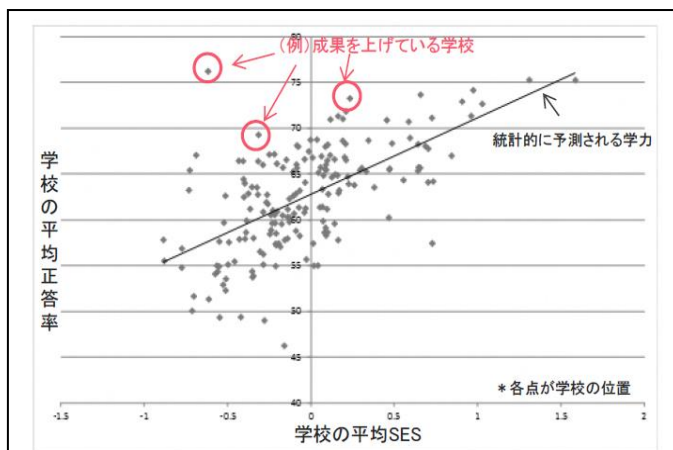


図 10 学校の平均 SES と教科の平均正答率の関係

表 5 高い成果を上げている学校の特徴

1	家庭学習指導
・	宿題＋自主学習、自分の関心に沿った学習と弱点を自分で発見し補充する学習
・	小学校では特に丁寧な指導を行う
・	必ず教師が読み、手を入れ子どもに返す
2	管理職のリーダーシップと同僚性の構築、実践的な教員研修
・	教科を超えた研究授業、授業の見せ合いから同僚性へ
・	学校内外に授業を見に行く、県内外にかかわらず研修に出かける
3	小中連携教育
・	教育課程や学習習慣などの面で小中が連携し、系統性をもった指導を行う
・	特に中学校で成果
4	言語に関する授業規律や学習規律の徹底
・	書くこと話すこと聞くことを大切にする
・	ノート指導
5	学力調査の活用
・	学校の課題を明確にする際に活用
6	基礎・基本の定着の重視と、少人数指導、少人数学級の効果
・	発展的な学習よりも基礎・基本の定着のほうを重視
7	放課後や夏季休業中の補習
・	すべての教員が担う場合と、地域有償ボランティアが担う場合がある

いう。ちなみに年間 100 万語の英語を読むことは、楽しい読み物を用いれば、それほど苦労がないとされる。

これらのことから、家庭学習等で積極的に読書に取り組めるよう、学校司書等と連携し学校において読書指導の充実を図れればと考える。

(5) まとめ(「確かな学習習慣」から「家庭学習力」へ)

本調査から、学力が高いと推測されるグループの児童・生徒は、家庭学習の時間が長く、携帯電話等の使用時間が短い。また、学力が身に付いていないと推測されるグループは、家庭学習の時間が短く、テレビ・ゲーム・携帯電話等の使用(利用)時間が長いことが当然のことながら、明白である。しかも、綾瀬の特質すべき課題は、家庭学習の時間が短く、テレビ・ゲーム・携帯電話等の利用(視聴)時間が長い児童・生徒が多いことにある。

校内研究等で、教員の授業スキルが高まり、素晴らしい実践が各校で行われており、綾瀬市の子どもたちは、授業で多くのことを学んでいる。しかし、子どもたちが授業で理解したと感じていても、習得できた(学力の到達)とは感じていない。授業内で理解できたのに習得できていないのは、前述したように家庭学習の時間不足が考えられる。

この調査を通じて、児童・生徒に「家庭学習力(家庭学習を自主的に行う力)」を身に着けさせることが最も大切であることが明白となった。しかし、「家庭学習力」がすぐに身に付くとは考えにくい。まずは、家庭学習を習慣化させることである。ベネッセ教育総合研究所が行った「小中学生の学びに関する実態調査(2014)」では、「成績上位の子どもは、成績下位の子どもに比べて、平均で 20~30 分程度学習時間が長く、学習の量と成績はある程度比例する」との報告がある。当然、すべてが「量」というわけではなく、ここでは「質」も大切であることが述べられている。しかし、初期段階においては、ある程度の「量」をこなすことによって、結果が見えてくることが考えられる。社会学者のピエール・ブルデューが提唱した「ハビトゥス(habitus)」という概念では、「人間は生まれ育った環境の中で、身体化され行動特性を無意識に身につけていく」と述べている。この概念から、大阪大学大学院教授の志水宏吉は、「学力にもハビトゥスが影響している。学力が低い子どもは学習意欲も低いとみなされることが多いが、そうではない。様々な場所で学力に関する自尊感情が傷つけられており、学習意欲が失せてしまっている。学力が低い子どもには、確かな学習習慣をつけることが先決である。」と述べている。

つまり、学習意欲を高めることも大切であるが、確かな学力の向上には、「確かな学習習慣」が不可欠である。家庭学習の仕方や取り組む姿勢をきちんと指導して、学習時間を確保させる。そして、学習したことに対して褒めたり励ましたりを繰り返す。そうすることで自尊感情を回復させ、「またやってみよう」と自ら学ぶ意欲につなげることが必要である。それが最終的に「家庭学習力」につながるのではないかと考える。

